

## 第5学年東組 国語科学習指導案

### 「長年愛される物語の魅力について伝え合おう ～『大造じいさんとがん』～」

学習指導者 小出 早織

#### 1 学級（35名）の実態

##### （1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果を見ると、「目当てに向けて、何から取り組むとよいかを考えている」「目当てに向けて、今までに習ったことが使えないかと考えている」と答えた子供はどちらも30名である。しかし、国語科の授業中に解決の見通しをもつ場面では、何から取り組むとよいか考えた発言は多いが人物像や表現の工夫、物語の全体像などの観点を意識した解決方法を考えている子供は一部である。

##### （2）本単元の学習に関する学級の実態

国語科の物語の学習が好きだと感じている子供は33名いる。その理由として、物語の山場や展開、表現の工夫、人物の様子や心情を読み取っていくことに面白さを感じている子供が多かった。これまでの国語科の学習において、「人物の心情や様子を表す言葉を見付ける」「物語の山場を見付ける」など、人物像や物語の全体像を想像することに関する技を獲得している。しかし、それらの技が十分定着していない子供が10名程度いる。

#### 2 本単元で習得を目指す「解決の見通しをもつ」方法

これまでに獲得した国語の技の中から、使えそうなものを選ぶ

#### 3 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

本単元では、『大造じいさんとがん』という作品が、長年教科書に取り上げられているのはなぜなのかという問いを見だし、「物語の魅力を見付けて、自分の考えを友達と伝え合おう」という単元の目標を設定する。その際に、既習の学習を想起し、物語の魅力は、人物像や物語の全体像が関係しているのではないかと予想した子供たちは、『大造じいさんとがん』の魅力を見付けるための学習計画を立てる。その後、人物像や全体像を捉えようと、学習の足跡を蓄積した国語ファイルなどを手掛かりに、これまでの学習で獲得した技の中から使えそうなものはないか考え、解決の見通しをもつ。

課題解決の際には、人物像や全体像の二つの観点について班で役割分担をして物語の魅力について探っていく。例えば、「僕は、『全体像』を考えるために、前の場面から変化したところを考えたよ。四場面では、大造じいさんが忌々しいと思っていた残雪のことを『英雄』と呼んでいるから、三場面での戦いをきっかけに大切なライバルだと考えるようになったと思うよ」「なるほど、関係性が変わったのは、大造じいさんが人か動物かに関係なく、素晴らしいものを素直に認められる人物だったからかもしれないな」「だからけがをした残雪の手当てをしてるんだね。『らんまんとさいた～』という情景描写からも元気に飛んでいく残雪を見送る大造じいさんの晴れやかな心情が分かるよ。大造じいさんがそんな人物だから、残雪とまたライバルとして戦うために、手当てをして逃がしたという結末になったんだね」「二つの観点を関係付けながら考えると大造じいさんの人物像や物語の全体像がよく分かってきたな」「卑怯なことを嫌う大造じいさんが戦いを通して残雪の頭領としてのかっこよさを認めて二人の関係がどんどん深まっていくのが物語の魅力なのかもしれないね」などと、叙述を基に想像したことを関係付けながら魅力につながる人物像や全体像について考えを深めていく。

振り返り場面では、「使えた国語の技」「参考になった友達」について振り返り、自分の取り組み方のよさを捉える。このような学習を繰り返しながら、二つの観点から想像したことを基に物語の魅力について味わったり、感じたことを伝え合ったりしようとする姿を目指す。

#### 4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

教科書改訂時に取り扱われなくなる作品があることや、『おにぎり石の伝説』が今回の教科書改訂によって新しく採用された一方で、既習教材（『ごんぎつね』『注文の多い料理店』）は昔から教科書で扱われていることを伝え、それらの物語にはどんな魅力（物語の魅力とは、人物像や全体像を踏まえて、繰り返し読みたくなるような面白さのことと、前単元で共有している）があると思うか全体で話し合うことで、物語には多様な魅力があり、人によって感じ方が違うことに気付き、それらを交流することの面白さを感じられるようにする。そして、『大造じいさんとがん』は、5年生の教科書で一番古く（昭和55年）から掲載されていることを伝えることで、「なぜ、長年教科書で扱われているのだろう」という問いを見だし、「それだけ長年扱われているのは、この作品に魅力があるからに違いない」などと作品の魅力について考える意欲を高め、「物語の魅力を見付けて、自分の考えを友達と伝え合おう」という目標を設定する。

#### 5 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 5/6）

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p><b>① 学習計画を立てよう</b></p> <p>既習教材の魅力について話し合った後、『大造じいさんとがん』という作品が5年生で最も古くから掲載されていることを知り、「なぜ、長年教科書で扱われているのだろう」という問いを見いだす。そして、「物語の魅力を見付けて、自分の考えを友達と伝え合おう」という単元の目標を設定する。その後、『注文の多い料理店』の学習で人物像や全体像を捉えると物語の魅力について考えをまとめることができたことを想起し、『大造じいさんとがん』でも人物像と物語の全体像の二つの観点から物語の魅力について迫っていくことを共有する。そして目標の達成に向けて解決すべき課題と必要な時間を共有することで、役割分担をしながら進めていく必要性を感じ、学習計画を立てる。物語を一読し、物語の大まかな出来事と構造、登場人物について確認し、物語の魅力についての初発の考えを書く。</p>	<p><b>【認知段階】</b></p> <p>これまでの学習で国語のファイルなどを教師と一緒に見返しながから、課題解決に使えるような技はないか話し合うことで、「これまでに獲得した国語の技の中から、使えるものを選ぶ」と解決の見通しがもてるということを教示している。加えて、これまでに獲得したものの中から課題解決に使えるようなものは何か考えてから取り組むと、課題に対する自分の考えをつくることができるという方法を使うことのよさも共有している。</p>
二	<p><b>②～⑤ ○場面までの人物像や全体像を考えよう</b></p> <p>②時では、学習を効率よく進めるために、班の友達と役割分担する進め方を確認する。そして、既習の学習について想起できるように国語ファイル（既習教材の表現物や考えの手掛かりについてまとめたヒントカードを綴じているもの）などを確認することで、解決の見通しをもち、それぞれの分担した観点について叙述を基に想像したことを付箋に書き出す。その際には、必要に応じて同じ観点の友達と交流してもよいことを共有する。その後、班に戻ってそれぞれが見付けた人物像や全体像について考えを持ち寄り話し合うことで、二つの観点を関連付けながら人物像や全体像について話し合う。③時から⑤時も同様の流れで二～四場面から分かる人物像や全体像について観点を分担し、同じ観点の友達や同じ班の友達と繰り返し話し合いながら、より詳しく魅力に迫るために人物像や全体像を捉える。また、毎時間1枚の「魅力発見マップ」に人物像や全体像について想像したことを書き溜めていく。</p>	<p><b>【想起段階】</b></p> <p>「目当てを解決する方法を見付けるためにはどうすればよかったかな」と問いかけ、方法を想起できるようにする。また、方法の言葉や方法を使う際の手掛かり、技の具体を側面に掲示しておくことで、方法を想起しやすくしておく。</p>
三	<p><b>⑥ 物語の魅力について伝え合おう</b></p> <p>前時までに捉えた人物像や全体像を基に、自分が考える物語の魅力について考えをまとめる。そして、自分が考える物語の魅力について友達と交流し、お互いの考えに納得できる部分を伝え合う。その後、①時で考えた物語の魅力と⑥時で考えた物語の魅力を比較し、本単元での学習の成果や取り組み方を振り返り、単元の学びを捉える。</p>	<div data-bbox="1053 1769 1420 2016" data-label="Diagram"> </div> <p><b>【方法に関する掲示物】</b></p>

6 本時の学習

目 標	四場面の人物像や全体像につながる叙述や表現の工夫に着目しながら、想像したことを友達と話し合うことを通して、人物像や全体像についての考えを深めることができる。
--------	--

学習活動	主な子供の意識
見 通 し	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <p>物語の魅力を見付けるために、「人物像」「全体像」の観点で役割分担して三場面まで読んできたよ。</p> <p>今日は残雪との別れの四場面の人物像や全体像について考えたいな。</p> <p style="text-align: center;"><b>四場面までの人物像や全体像を考えよう</b></p>
	<p>2 解決の見通しをもつ。</p> <p>これまでに獲得した国語の技の中から、使えそうなものを選ぶと解決する方法が見付かるよ。国語ファイルや掲示物を参考にしたらよかったね。</p> <p>中心人物の心情や性格が分かる言葉を見付けて人物像を捉えたいな。一場面と四場面を比べて、人物同士の関係や心情の変化を見付けよう。</p>
行 動	<p>3 人物像や全体像について話し合う。</p> <p>(1) 個人や 同じ観点で</p> <p>「また、堂々と戦おうじゃあないか」から大造じいさんが正々堂々とした戦いを求めているのが分かるな。正直で誠実な性格なんだろう。</p> <p>大造じいさんはけがをした残雪を助けているな。一場面で忌々しい相手だと思っていたのに、四場面では二人の関係が変化しているな。</p> <p style="text-align: center;">同じ観点で考えた人と交流してみよう。</p> <p>(2) 班で</p> <p>会話から大造じいさんが卑怯なことを嫌う正直で誠実な性格が分かると思った。</p> <p>「らんまんと～」の情景描写から、大造じいさんの清々しい心情が分かるね。</p> <p>残雪を「英雄」と呼んでいるところからも、二人の関係が変わっていることが分かるね。</p> <p>「いつまでも～」から、特別な存在に変わったから大造じいさんは見送っていると思う。</p> <p style="text-align: center;">次は、自分の班で二つの観点に関係付けながら話し合おう。</p> <p>(3) 全体で</p> <p>一場面と比べると、大造じいさんの残雪に対する心情が大きく変化しているんだね。</p> <p>会話文や情景描写からも残雪を大切に思う心情が分かったよ。だから、二人の関係が変化しているんだね。</p> <p>他の班のみんなはどんなことを考えたのかな。みんなで話し合いたいな。</p> <p>大造じいさんが残雪を思う気持ちが大きく変化していることが分かったよ。例えば、残雪を「英雄」と呼んでいるところや「見守っていた」などの複数の言葉からも分かるね。</p> <p>二人の関係が大きく変化したのは、二、三場面の残雪が見せた利口さや頭領としての姿が関係しているだね。だから、忌々しい相手だったのが、最高のライバルになっていったのか。</p> <p style="text-align: center;">二つの観点についてマップにまとめよう。物語の魅力が分かってきたよ。</p>
	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>情景描写や人物の行動を見付けて関係付けながら想像すると人物像や全体像が詳しく分かったな。</p> <p>友達のおかげで全体像のことが分かったし、自分も人物像について伝えることができたよ。</p> <p style="text-align: center;">次はこれまでの学習を生かして、物語の魅力をまとめて交流したいな。</p>

評 価	<p>既習を基に人物像や全体像を想像するための技について見通しをもち、人物像や全体像について具体的に想像している。また、想像したことを友達と話し合いながら、物語の魅力に繋がる人物像や全体像について再考している。</p> <p style="text-align: right;">【方法：発言、様相、ワークシート】</p>
--------	---

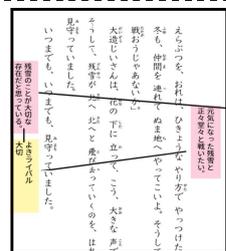
7 本時の詳細

～見通し～ **学習活動 1・2**

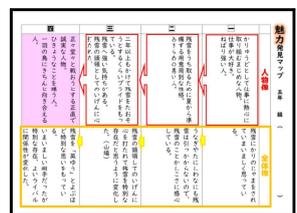
本時まで「物語の魅力を見つけて、自分の考えを友達と伝え合おう」という単元の目標に向けて、それぞれの場面ごとに物語の魅力に繋がる人物像と全体像についての考えをまとめてきたことを全体で共有した後、学習計画表を基に、課題を設定する。その後、「目当てを解決する方法を見付けるためにはどうすればよかったかな」と問いかけ、方法の想起を促す。また、方法を側面に掲示しておくことで、方法を想起しやすくしておく。解決の見通しをもった後、既習を基に自分が選んだ本時使えるような解決する方法（国語の技）について問いかける。その際に、班の友達とこれまでに獲得した国語の技の中からどの技が使えるか確認する場を設けることで、方法の想起が十分でない子供も想起できるようにする。人物像を考える際には、人物の心情や性格が分かる言葉などを見付ければよいことや全体像を考える際には、これまでの場面と比べて人物の心情や人物同士の関係の変化が分かる言葉などに着目しながら物語を読み取っていくとよいことを全体で共有する。そして、これまでの学習で友達と役割分担をして、それぞれの考えを話し合ったことで、より詳しく人物像や全体像について考えられたことを想起することで、本時も友達と話し合う必要感を高める。

～行 動～ **学習活動 3**

これまでに、物語の魅力につながる人物像と全体像の二つの観点で考えるという経験を一場面から三場面まで積み重ねてきている。その際に、限られた時間内で二つの観点から考えるために、それぞれの観点を班で分担し、効率的に魅力に迫っていくという方法で取り組み、役割分担をした話し合いのよさを共有している。本時でも、まず個人や同じ観点で話し合う活動（エキスパート）を設けた後、二つの観点を関連させながら話し合う活動（ジグソー）を行う。エキスパート活動の際には、同じ観点で考えた友達と話しやすいように五、六人の小グループを作り、観点ごとの交流スペースを設ける。補助黒板に観点ごとに技と手順（①技を使って想像したことを付箋に書く②想像したことを発表する③関連がある人からつなげていく④納得したものは新しい付箋に青で書き足す）や三場面までに書き込んだ本文を掲示し、いつでも確認できるようにしておく。また、各グループには、拡大した本文を掲示しておき、どの叙述を基に考えたのか自由に印を入れながら話し合えるようにし、考えを共有しやすくする。付箋の数が少ない子供には、再度手順を見直したり、同じ観点で考えている友達の考えを参考にするように促したりする。その後、ジグソー活動の際には、班で一枚のワークシート上に観点ごとに色分けした付箋を、考えの根拠となる叙述の近くに貼りながら話し合うという手順を確認することで交流しやすくする。自分と同じ叙述を選んだ友達がいた時や、付箋の内容が似ているなどと思った友達がいた時には、必要に応じて関連のある付箋や叙述を矢印などで繋ぎながら話すように促すことで、複数の叙述を関連させながら、人物像や全体像について詳しく考えていけるようにする。最後には、本時話し合ったことを基に、個人で人物像や全体像について考えたことを魅力発見マップにまとめる。友達と話し合うことで複数の叙述を関連させながら二つの観点について、考えを広げたり深めたりできたか問いかけ、できたと感じている姿を価値付ける。



【ワークシートの一部】



【魅力発見マップ】

～振り返り・見通し～ **学習活動 4**

「使えた国語の技」と「参考になった友達」について学びチェックの欄に使った技の記号と、友達の名前を記すようにすることで、自分の取り組み方のよさを捉えられるようにする。そして、友達から学んだと感じている姿の具体を全体の場で取り上げることで、自分が、友達の学びに貢献していることを感じられるようにする。その後は、学習計画表で進捗状況を確認し、目標に向けて次に行いたいこと、取り組むべき課題について問いかけることで、見通しをもって次の活動に取り組むことができるようにする。



【学びチェック】